

# With

東北大学病院  
地域医療連携センター通信

第24号  
2012.8

CONTENTS

- 1…… 臨床試験推進センターの紹介
- 2…… 新診療科長の紹介  
総合感染症科  
腎・高血圧・内分泌科  
呼吸器内科
- 3…… 新診療科長の紹介  
婦人科  
産科  
放射線治療科
- 4…… 新診療科長の紹介  
歯科顎口腔外科  
医科と歯科の連携診療  
＜治療成績向上のために＞
- 5…… 精神科の紹介
- 6…… 急性・重症患者看護専門看護師の紹介  
大野和士のころふれあいコンサート2012
- 7…… 原発性アルドステロン症；  
地域医療ネットワークと当院での取り組み  
コーヒーブレイク
- 8…… がん診療相談室 がんサロン「ゆい」の活動  
第8回市民公開講座開催のお知らせ  
呼吸器外科が平成24年6月より完全予約制となりました  
加齢核医学科は平成24年6月より新患日に変更になりました  
歯科顎顔面外科・歯科口腔外科が平成24年6月より統合しました  
第8回地域医療連携協議会開催のご案内



人にやさしく未来をみつめる

東北大学病院

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1番1号  
TEL 022(717)7000(代)

地域医療連携センター

TEL 022(717)7131(直通)  
FAX 022(717)7132

★ SPECIAL

## 臨床試験推進センターの紹介

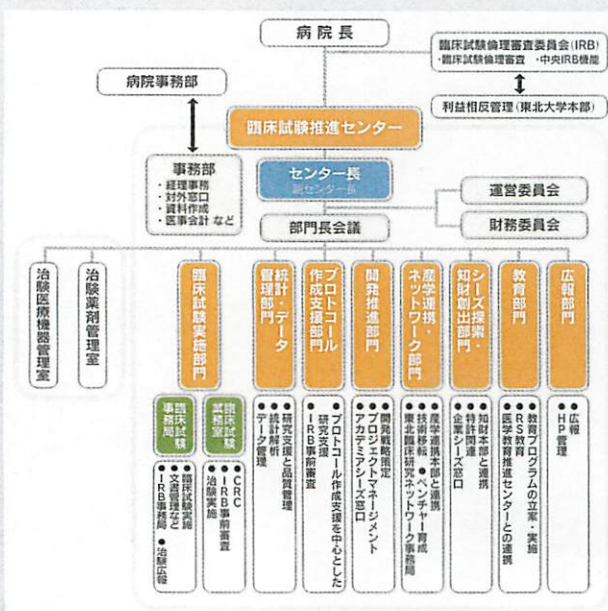
臨床試験推進センターは、安全で有効な薬や医療機器の開発を支援する部門であった「治験センター」と東北大学直属の組織としてトランスレーショナルリサーチを支援する組織であった「未来工医学治療開発センター」とを統合し、平成24年4月1日に大学病院内の新組織として設置されました。

ライフサイエンス系の研究開発について、臨床研究から臨床試験(治験)へのシームレスな支援を実現し、高度なトランスレーショナルリサーチの実践を目指し、質の高い臨床研究の推進、研究成果の実用化を目的としております。

東北大学には数多くの研究者が世界最先端のライフサイエンス系の研究が行われています。



センター長  
八重樫 伸生



- 基礎研究で出た成果をどうしたら効率よく実用化できるか?
- どういうサポートが必要か?
- そのためにはどういった人材を育成しなければいけないのか?

当センターは、大学病院内の組織ではありますが、メディカル・ライフサイエンス系の基礎研究成果を実用化するために全学的な連携の中核として活動してまいります。

さらに、東北地方の各大学・医学部・市中病院とも連携しながら、国際的な臨床試験(治験)への参画を目指す開かれた組織です。

研究成果を臨床につなげたいと考えている研究者の方、遠慮なくご相談ください。

東北大学病院 臨床試験推進センター  
TEL : 022-717-7122



INFORMATION

新診療科長の紹介

婦人科 科長 新倉 仁

平成24年4月1日付で婦人科長を拝命いたしました新倉仁です。  
当科においては婦人科学分野のどの領域の専門性にも対応し、さらに科学的に検証可能で将来につながるような最先端治療の提供ができる体制を目指しています。

婦人科腫瘍に関しては多くのがん症例を取り扱っており、低侵襲手術にも積極的に取り組んでいます。センチネルリンパ節生検の婦人科悪性腫瘍への適用、術中電気刺激を利用した神経温存手術による排尿機能の温存、広汎性子宮頸部摘出術による妊孕能温存の有用性、婦人科悪性腫瘍手術における腹腔鏡下手術の有用性を検討しています。今後、ロボット支援手術も開始する予定です。また、積極的に臨床試験や医師主導治験となるような新たな治療を検証しています。

生殖内分泌の領域では高度生殖補助技術(体外受精、顕微授精

など)に加え、不妊症例における鏡視下手術(腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術)や、卵管鏡下卵管形成術などの高度医療に取り組んでいます。思春期月経異常、性分化異常、性同一性障害に対しては他科と連携しながら、また、子宮奇形、造腔術などの希少な症例に対しての手術も行っています。

最先端の医療を目指しながら、何よりも患者さんのためになる医療を目指していきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。



INFORMATION

就任のご挨拶

産科 科長 菅原 準一

平成24年4月1日付けで産科長を拝命いたしました。よろしく願いいたします。

最近、当院における分娩数は約2倍近くに増加し、1000件/年に届く勢いで、全国的にもトップ1-2の分娩数(大学病院)を取り扱っております。と同時に、ハイリスク妊娠・分娩も増加の一步を辿り、より高度な周産期管理が求められています。

○ 多様な価値観に寄り添うお産を目指して

分娩は、大きなライフイベントであると同時に、待たなしの「救急疾患」でもあります。多様化した価値観に伝えるために、4月1日より助産師外来を拡充し、スタッフのスキルアップ、地域周産期コメディカルスタッフの研修機会の拡大を目指しています。

○ 地域医療プロバイダーとの協調診療を推進

産科診療には、医師以外の職種の皆様それぞれがキープレイヤーとなる場面が多々あります。また、数多くの診療科の先生方との協調に

よって、はじめて安全な分娩⇒健全な育児へのリレーが可能となります。今まで以上に地域医療機関の方々にご指導いただきながら、ご家族すべてに幸福をもたらす、より良きお産を目指してゆきます。

○ 被災者オリエンテッドな地域周産期医療の復興

大震災後の地域医療体制を先端ICTにより再構築し、ゲノムコホート研究を通じて、個別化医療を導入するため、東北メディカル・メガバンク機構(ToMMo)が走り始めました。国家的プロジェクトの地域医療支援部門の一翼を担うため、メガバンク地域支援センター(H24年度順次設置予定)を介して被災地医療庇護を拡充し、横断的な母児医療支援体制を確立します。



「東北大学病院地域医療連携センター通信With第24号」より許可を得て転載